

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270101837		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム 滑石	ユニット名	
所在地	長崎市滑石6丁目5番75号		
自己評価作成日	2024年 9月 13日	評価結果市町村受理日	2024年 10月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 9月 30日	評価確定日	2024年 10月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームの食堂やリビングからは、庭を眺める事ができ、四季折々の草花を見ながら、四季を感じる事ができます。入居者の方々には、洗濯たたみ・洗濯干し・小鉢の盛り付け等、入居者ができる事を一緒に手伝って頂き自立支援を目指しています。自立支援や自己決定を行って頂く為、不定期でデリバリーデーを設け、地域のお食事処より入居者の皆様が、メニューを見て食べたい物を決めて頂き、色を楽しんで頂いたり、入居前によく行かれていた、お酒屋さんに職員と一緒にノンアルコールビールを買いに行ったりと、地域との繋がりも大切にしています。その他、ドライブや散歩・月に一回おやつ作りなども行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム・滑石”は「グループホーム秋桜」のサテライトであり、2022年1月から新リーダー、2023年5月から以前の管理者が復職されている。「自立支援」という同じ方向を向いた職員ばかりであり、チームワークも良好で、より良い意見交換ができています。日々の生活では住み慣れた地域で過ごしていただけるよう近くの公園に行かれたり、行きつけの酒屋で買物をされる方もおられる。生活習慣や特技を把握し、お好きなピアノを弾かれたり、柿の皮むき、おやつ作り、餅つき会、居室の掃除、洗濯物干し、洗濯たたみや縫物等の役割を担ってくださる。地域交流も再開し、ハロウィンの際は近隣小学校の児童が仮装で訪問してくださり、ホームからも窓越しに子ども達にお菓子を配り、楽しいひと時を過ごされた。ホームの納涼会では「たこ焼き」「焼きそば」「チョコバナナ」などを楽しまれ、「輪投げ」「金魚すくい」などの体験をすることもできた。近くの公園やユアライフ周辺を散歩されたり、あぐりの丘で秋桜見学を楽しまれ、車いすを利用する方を含めて馴染みのランタンフェスティバルに行き、車の中から眼鏡橋のランタンを見学することができた。今後も自立支援の視点を大切に、ご本人と家族にわかりやすい介護計画を作成していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印		項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念やケア理念は毎月の事業所会議で復唱しているが、実践に繋げているかはまだ課題がある。事業所にも掲示していつでも職員が見れる場所に理念を掲示し共有している。	2021年4月に「グループホーム秋桜」のサテライトになっている。「秋桜」「滑石」共通のケア理念を作り、「幸福感～自分らしく、笑顔で、ありのままの生活」の実践に努めている。理念をホームに掲示し、会議の時に理念を復唱している。 2022年から新リーダーが就任し、2023年5月から新管理者が就任しており、新たなチームが作られている。自立支援に向けた詳細な課題分析を行い、適切なケアに繋げており、アセスメントとケアプランに基づくケアの統一を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り夏祭り、地域の清掃活動などに職員が参加して地域との繋がりを深めている。コロナ禍により地域行事への入居者の参加ができていない為、今後、職員も入居者も参加して交流を深めていきたい。	この1年、マネージャーが中心になり、地域交流を増やしてこられた。横尾地域の盆踊りと滑石地域の夏祭りにマネージャーと職員が実行委員として参画し、地域の清掃活動、地域サロンなどに参加している。施設が「こども110番」に登録しており、ハロウィンの際、近隣小学校の児童が仮装で訪問してくださり、ホームの窓からお菓子を配り、交流することができた。地元の食事処や寿司屋の宅配を利用し、酒屋に買い物に行かれる方もおられる。コロナ以前は滑石保育園の遊戯会や運動会の見学をしたり、ホーム内で「学童ひまわり」の子ども達や大園小学校との交流を続けてこられ、今後も子ども達を含めた交流方法を検討していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて研修での取り組みなどを報告したり、意見交換などを行っている。民生委員の方々との情報共有を積極的に行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容は、毎回議事録で確認している。防犯訓練や防災訓練に関しての意見は改善を図っている。会議の内容を職員へ周知してサービス向上にいかしていきたい。	2023年7月以降、ユアライフ滑石4階の多目的室で対面開催を再開している。リーダーを中心に日頃の写真を準備し、日々の取組み、行事内容、火災対策、地震等の訓練状況、看取りケアなどを報告している。参加者の方々との情報交換も行い、議事録も詳細に残している。自己評価（外部評価）結果も報告し、「コロナ禍でご家族との面会もままならない状況の中、LINEでの動画などでご家族との繋がりを持っていたく工夫がとても良いと感じた」等の感想をいただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてご意見やアドバイスなどを頂いている。加算やサービスについて不明な点は市役所へ確認するようにしている。	2023年5月に管理者が変更になり、マネージャー等と一緒に市役所に挨拶に行かれた。加算算定等の不明点を市役所へ電話連絡した際も丁寧に教えていただき、運営推進会議の開催方法を含め、様々な情報を市の職員からアドバイスいただいている。市役所からアンケートの依頼があり、記載して返信している。コロナ以前は介護相談員の派遣や市民ボランティアの方の訪問を毎年受け入れており、今後も市の方に相談していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を中心に研修や勉強会を実施している。グループホームの身体拘束廃止に関する指針について、職員へ周知している。職員へアンケートを取りケアの見直しや対応について振り返りが行えている。	ご利用者の離設があり、出入り口にドアベルと人感センサーチャイムを設置している。ご本人の帰宅願望等に寄り添い、原因分析とケア内容を検討し、安心した生活になるよう努めている。法人全体で身体拘束ゼロ・虐待防止委員会を開催し、職員が記載する「身体拘束に関するチェック表」を確認している。委員会メンバーが各事業所を訪問し、ケア内容の確認をしている。勉強会も行い、不適切ケアを振り返り、言葉による拘束などが行われていないか意見交換している。虐待防止の担当委員は立候補であり、委員会の内容を職員に伝達し、日々の言動の振り返りに活かしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を中心に研修や勉強会を実施している。見過ごされやすい言葉による虐待が起きないように、職員間で指摘し合える環境作りが必要である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に対象者がいないこともあり、学びを深めることができていないので、今後の課題としていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、管理者が重要事項説明書、契約書、看取りの指針を分かりやすく説明し、御家族より同意を頂いている。入居後も不安や疑問があれば、随時、話をしながら理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前にご意見箱を設置している。電話での要望などは、職員間で伝達し、出来る限り早く対応している。	感染状況に応じて面会場所や時間、人数などを検討し、面会緩和を図ってこられた。感染者が増加している時は家族に説明し、随時条件を変更している。外泊もできるようになり、ご本人と家族の笑顔が増えている。面会時は日頃の暮らしぶりや健康状態を報告し、LINEで写真や動画を送信し、家族の思いや要望を伺うように努めている。2019年まで家族懇談会で家族交流が行われており、今後も開催に関する検討を行う予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃、職員と話をし、要望などを確認している。職員会議には、マネージャーも出席し、職員からの意見を聞いて頂いている。	2021年4月から「グループホーム・滑石」は「グループホーム秋桜」のサテライトになり、秋桜・滑石合同会議が毎月行われている。日々の業務の中で「無理・無駄・むら」がないかを確認し、ケアカルテやデスクネッツ、LINEワークスを活用して、情報共有を行っているが、伝える側と受け取る側にズレが生じていることがあり、ミーティングや個人的に直接口頭で伝達している。2023年5月に管理者が交代しているが、以前、管理者をされていた方であり、リーダー、他の職員と結束し、介護職員の専門性を保てるように努め、入居者に向き合う時間が増えている。運営者、幹部の方々も現状を理解してくださり、働きやすい環境作りを続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇については、取得できるようにしている。残業に関しては、職員間で声掛けを行い退勤できるようにしている。人員配置上、時間外での調整が必要な場合も多く、職員に負担がかからないよう勤務調整が必要である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には法人での研修に参加し、基本的な接遇マナーや認知症等を学び、各事業所へ配属となっている。1ヶ月後、振り返りの機会がある。OJT計画を立てて実践している。国家資格の取得にあたり、助成や働きかけを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム協議会の研修会に参加している。コロナ禍の為、交流会等には、参加できていない。研修などは、ウェブ研修などに参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時、利用者が不安にならないような声掛けを意識している。台帳やケアプランを活用し、職員間で情報を共有し、入居後の関係作りに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接及び、入居の意向を確認した際、ご家族に不安な事や要望を確認し、職員間での情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をご家族やケアマネに頂き、本人の今必要としている事を把握しケアプランに反映している。入居する際に、ご本人がどのような生活を望んでいるかなど、思いを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けや対応に十分注意し、慣れ合いの関係にならないよう支援している。入居者と会話しながら、本人が出来る事などを考え、実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が制限されている時は、電話やラインなどを活用し、入居者の状態を伝え、ともに支える関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫様やご家族より、誕生日や敬老会・母の日などお花や贈り物が届く為、この関係性が途切れないよう支援していく。	日々の会話の中で生活歴を伺い、家族も馴染みの場所を教えてください。センター方式を活用し、「B-2暮らしの情報」等で生活歴を記録している。職員と一緒に自宅を訪問し、近所の方に会うことができた方、ご主人の葬儀に参加できた方、馴染みのスーパーに買い物に行き、顔馴染みの店員と会話を楽しまれた方、入居前からの行きつけの酒屋に職員と一緒にノンアルコールビールを買いに行かれる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性などを検討しながら、配席など工夫している。職員が間に入り、入居者の交流ができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院された方がリハビリの為、同法人の老人保健施設に入所されリハビリを継続されたが、その後も情報共有を行い、グループホームに再入居された方がいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のペースを尊重し入居者の希望や思いを把握するよう努めている。（一番のお風呂・個別の洗濯、洗濯物干しなど）	統一したアセスメント様式を活用している。センター方式「C-1-2私の姿と気持ちシート」「D-1私ができること・できないこと」等も活用し、「散歩など外に出かける」「戸締りをしたい」等の思いや意向の把握を続けている。面会時や電話・LINE等で、家族の意向や要望などを伺い、笑顔が見られた際は写真を撮り、家族と共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や以前利用していたサービスの職員からの聞き取りやご家族、知人からの聞き取りを大切にしている。入居者台帳やアセスメントシートを活用し、情報共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態や様子を見ながらできる事を提供している。毎日のバイタル測定や排泄の间隔・食事量などの把握を行っている。「ケアカルテ」を活用している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはケアカルテで毎日実施している。カンファレンスでは、ご家族の意向も確認しながら計画書を作成している。	ご本人が好きな「ダイヤモンドゲームをして欲しい」と家族から要望があり、職員と一緒に勝負している。家族と一緒に馴染みのスーパーに買い物に行かれる方もおられ、自立支援の視点で「できること」を引き出し、維持できる視点で計画が作られている。職員間で詳細な分析を行い、2表の援助内容も具体的に記載しており、「ピアノを弾く」「リハビリ体操」「散歩」「ドライブ」等も盛り込み、「ご本人」「家族」も担当者として記入している。適宜、計画の見直しをしている。	①今後もアセスメント内容に記載した「できること」「できそうなこと」「各活動の要望」等を活かし、介護計画2表の一番左（「課題」を「ニーズ」に変更予定）に繋げていき、長期・短期目標を具体化していく予定である。 ②今後も計画内容をご本人が読まれて前向きになれる表現を心がけていく予定である。 ③介護計画作成に際し、ニーズ・長期目標・短期目標の専門用語を減らし、ご本人と家族に説明する際にわかりやすい表現を心がけるとともに、家族との話し合いの機会を増やし、日々の実施状況を家族に報告していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等は都度タブレットに入力を行い、職員間で情報共有が、出来ている。いつもと違う様子や活動など、ケアカルテに細かく入力できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態に応じた福祉用具の検討や家族支援等、その時に応じたニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部サービス（訪問マッサージ・訪問カット・歯科往診等）を入居者の要望に応じ対応している。重度化に向けてリフト浴などの検討も行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、受診同行はご家族へ依頼している。遠方や車いす使用の方に関しては職員が同行。主治医へ入居者の情報を細かく伝え、連携が図れるように取り組んでいる。	希望の医療機関に受診できる。家族が受診介助する際は、受診時に血圧表や体重表、日頃の様子を記載した表を持参いただき、受診後に情報共有している。ご本人の状態や家族の都合で付き添えない場合は職員が対応している。往診を受けている方もおられ、家族と受診結果を共有している。訪問看護師もホームのケアカルテ（タブレット）を共有でき、アドバイスを受けており、医師の指示で点滴を受けることもできる。2022年4月から薬局を一元化し、薬剤師との連携を密に行うとともに、QRコード（職員・入居者・薬袋）管理を行い、誤薬予防に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携している。週1回訪問あり、日頃の様子や特変などを報告している。24時間体制で対応しており、特変時は連絡し助言や指示を受けている。ケアカルテの内容を共有できている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院へ情報をお伝えして共有を図っている。退院に向けての情報提供・退院前のカンファレンスに参加し連携を図り、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族など、日頃より意向を確認し、必要な時は、主治医・管理者・訪問看護などと一緒に話し合いを行い、チームでの支援を行っている。	入居時に「24時間の医療連携を行う事」や、「ホームでできる事・できない事」を説明している。「最期までホームで」と願う方も増えており、医師、訪問看護師などと連携している。褥瘡を発生させないためのエアマット等を活用し、日々の寄り添いで誠心誠意のケアが行われている。家族の方も体調に応じた衣類を持参していただき、アイスなどを食べさせてくださった。職員もご本人が好きだった歌などを流している。ご逝去の際は全ての入居者と全職員でお見送りをさせていただいた。	職員の入れ替わりもあり、今後も医師・訪問看護師等と一緒に、看取りについての職員の思いや不安などについて話し合う機会を作り、勉強会等を実施していく予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはすぐに対応できるよう、マニュアルや緊急連絡網を作成している。救命救急法の訓練を受けたり緊急時の対応ができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練は毎月一回実施。初期消火・誘導訓練・通報・煙などの自主訓練。昼間・夜間想定での訓練を実施。年1回は北消防署立ち合いで訓練実施。法人内に防災委員会があり、火災・地震・土砂災害・防犯などの訓練を行っている。	2023年11月（日中想定）、2024年2月（夜間想定）は消防設備業者・消防署指導者、入居者も一緒に訓練が行われた。BCP委員会を開催して、計画書の周知や見直し、勉強会を実施している。ハザードマップ上、土砂災害警戒区域になっており、土砂災害についての避難訓練（DVD鑑賞）も行い、豪雨の状況に応じて系列施設に避難している。毎月の訓練で消火器の位置確認・防災等のDVD鑑賞を行い、自家発電等の準備、食料（3日分）、水等があり、備蓄品は賞味期限なども定期的に確認して栄養士に伝えている。	2023年度から、マネージャー（防火管理者）・管理者を含めて新体制になっており、ホームのある「リッチ滑石（アパート）」の建物内で火災等が発生した際の対応を検討する予定である。玄関から右側の居室は庭に直接避難でき、左の居室は2階になるので、今後あらためて避難に関する地域連携の状況や、消防署からのアドバイスを確認していきたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内で接遇マナーアップ宣言を行っており、自己チェックと振り返りを行っている。一人一人に合わせた言葉かけを意識している。	身体拘束委員会で「尊厳を守る行動計画のチェックリスト」を記載し、法人内の接遇マナーアップ宣言もあり、自己チェックを継続している。トイレ誘導時の声かけはさりげなく行い、室内で排泄介助を行う際はドアを閉めている。傾聴・受容・共感を基本とし、一人一人に合わせた優しい声かけをするように努めている。	今後も職員個々の言動を振り返り、更なるレベルアップに向けた目標等を明示し、日々の「頑張り」と「反省」を自己評価していく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝時間や入浴などは、ご本人の要望を伺っている。飲み物などは、何種類かの中から選んでいただいたり、入浴後に着たいものを選んでいただくなど自己決定できるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、入居者のペースや習慣に合わせた対応を行っている。ご本人に意思確認を行うようにしている。外出なども希望に沿った支援を行っている。（現在コロナ感染予防に伴い、外出制限あり）			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、洗面所で顔を洗ったり、髪を整えたりと身だしなみに気を配っている。行事の際は化粧をしている。美容室に出かけたり、訪問カットを定期的に利用している。（コロナ感染予防にて制限あり）			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房からの食事を盛り付けていただいたり、食事の量や形状を個々に合わせて対応している。イベント時は厨房の協力をいただいたり、デリバリーを入居者と一緒を楽しんでいる。	2017年から副食は厨房で作り、苦手な食材は他の食材に変更できる。厨房から鍋で届き、入居者と一緒に盛り付けし、下膳、食器洗い、食器拭き等を手伝ってくださる。ご飯と汁物はホームで作り、おやつ作り、柿の皮むきも一緒に楽しまれている。パリオリンピックの時には、昼食時に週替わりで参加国の料理を提供し、とても喜ばれた。入居者の方々の希望を確認したデリバリー（寿司・刺身）も楽しまれ、咀嚼に応じて職員が「手毬寿司」を作り、美味しく食べられた方もおられる。職員も一緒に注文して楽しいひと時を過ごされた。今後も「食レク」等を含め、入居者の役割を増やしていく予定である。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を行い、好みや量などの把握に努めている。複数の飲み物を用意し、入居者の飲みたい物を提供している。管理栄養士との連携で栄養バランスの確保が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者にあった口腔ケア用品を使用している。磨き残しなどないか確認や必要に応じ一部介助を行っている。歯科衛生士の定期検診を受けている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の方のできる力を生かし、可能な限りトイレやポータブルトイレの誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを設置し、ご自分で行きたい時にトイレに行ける環境を作っている。	排泄が自立している方も複数おられ、下着を着用する方もおられる。ご本人の微妙な行動を把握し、トイレ誘導のタイミングを見極めており、トイレで排泄できる事が増えている。パッドの大きさも個別に検討し、必要に応じて個別誘導や一部介助が行われている。排泄用品はトイレに置かず、棚などの目に触れない所に保管している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をあまり好まない入居者に関しては、水分補給ゼリーやイオンドリンク・ご家族と相談し好みの飲み物を持参頂いている。また、運動（体操や散歩）等を取り入れ、便秘予防に努めている。それでも排便ない場合は、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や要望を考慮しながら臨機応変に入浴日を変更できている。湯温や湯船に浸かる時間なども入居者によって変えている。主に午前中に入浴している。	湯船に入れる方も複数おられる。3日に1回のペースで入浴されており、その日以外の入浴も可能である。排泄後にウォッシュレットを使用する方もおられ、今後も陰部清拭を含めた清潔方法を検討予定である。入浴好きな方が多く、ゆっくりと湯船に浸かり、会話を楽しまれている。必要な箇所にすべり止めマットを追加し、できる範囲は洗われている。菖蒲湯やゆず湯、職員持参の薔薇の花を浮かべる日もあり、男性の入居者も喜ばれている。同性介助ができる体制も整えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、夜間に眠れるように努めている。昼寝をされる方に関しては、長く寝すぎない様、声掛けを行い覚醒を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬システムを活用し誤薬事故の軽減に繋がっている。主治医や薬局と電話等を行い、入居前台帳に服用してる薬について確認している。薬剤師より副作用などアドバイスをいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き等出来る事ややりたい事をお手伝いして頂いている。また、されていた趣味等をご家族に持ってきて頂き提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出制限があり、一人一人の希望にすべて添えてはいないが、昼食外食や散歩など可能な限りご家族と外出できるようにしている。お花見やランタン外出などドライブも実施した。	近くの公園やユアライフ周辺を散歩し、あぐりの丘で秋桜見学を楽しまれた。車いすを利用する方を含めて馴染みのランタンフェスティバルに行き、車の中から眼鏡橋のランタンを見学された。行きつけの酒屋でノンアルコールビールを購入する方や、馴染みのスーパーに買い物に行かれる方もおられる。コロナ以前はおくち、地域行事、系列施設の行事、紫陽花祭り、認知症カフェ（滑石地区）等に参加し、黒埼永田湿地自然公園、西海橋、護国神社などをドライブされていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金や貴重品はお預かりしていない。利用者が買い物を行う場合は、立替金にて購入しているが、入居者に支払っていただいている。契約時に説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族より話があった場合は、電話やライン電話を行っている。携帯を持っている方は、自由に電話していただいている。手紙については、要望ある方は、年賀状などを書いてもらっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに花を飾ったり、季節感を取り入れられている。母の日や敬老会、誕生日などは、リビングに飾り付けを行い、気分を盛り上げている。照明が暗い所などは、電球の変更を行なっている。	七夕やクリスマスなどの行事の時には飾り付けをしている。リビングから外の緑の木々を眺めたり、庭に出る事もでき、お花を摘んで飾っている。ピアノを弾かれる方もおられ、愛用の椅子（大きめの肘掛けあり）をリビングに置き、ゆっくりテレビを見られている。ホーム内でハンガーに洗濯物を干してくださり、洗濯物たたみも一緒に行い、廊下で歩行訓練をされている。清掃業者（週6日）の方が、共有空間と各居室の掃除をしてくださっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側にマッサージチェアや椅子を置き、一人で過ごしたり外を見ながらくつろげるスペースを作っている。気の合う入居者と隣にする等、座席の配慮も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、ご本人の好きな本やカレンダー、写真を飾り、お仏壇を置いたりと出来る限り安心できるような環境を提供している。	和室と洋室がある。クローゼットと鏡を備え付け、2022年度は全居室に電動ベッドを導入した。タンス・椅子・カレンダー等を持ち込まれ、植物や家族の写真も飾られている。仏壇にご飯とお茶をお供えして手を合わせており、読経される方もおられる。居室にテレビの配線がなく、家族が持参したDVD鑑賞をされたり、庭を見ながら、家族が持参する本や雑誌を読まれる方もおられ、夜にラジオを聞きながら休まれる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングにはソファや足マッサージ器がありくつろいで過ごせる空間を作っている。共有部分には手すりが付いており、可能な限り歩行できるようになっている。ベッド周りにはコールセンサー等を設置している。		